

美術☆夏休みの課題「美術館へ行こう！」

美術館や美術展に出かけ芸術を鑑賞し、印象に残った作品の感想をまとめて、9月3日(月)に提出。

※9月3日はクラスごとにまとめて美術室前のBOXに提出してください。

★鹿児島市立美術館「ミュシャ展～運命の女たち～」→→入場受付で学校名を伝えると入場料が
200円で鑑賞できます。通常、中学生の入場料は600円です。

※上記以外の美術館・美術展でもかまいません。

☆学芸員によるギャラリートーク：7/28,8/11,8/25(土) 14:00～15:00

☆記念ワークショップ 8月5日(日) 10:00～16:00「はじめてのリトグラフ」

☆夏休みワークショップ8月19日(日) 10:00～11:30または13:30～15:00

「(仮)花の妖精のすみかをつくろう!～ミュシャ風塗り絵とオブジェ～」

※各ワークショップは、事前の申込み及び材料費が必要です。興味と日程があったら参加してみましょう。

詳しくは美術館ホームページで確認してください。

氏名	1年組番	行った日	8月31日(火)
		美術館・美術展名	市立美術館「ミュシャ展」

作品名	四季春夏秋冬 (1896)	作者名	ミュシャ
感じたこと			
この作品は、季節に合った風景や女性の服装していました。特に気に入った作品は夏です。女性もですが、後ろのひまわりも迫力があっていいなあと思いました。春は優雅に、秋は紅葉をモチーフに、冬は、白を基調にし、女性は丸めていました。花や女性の姿が季節と違っていいと思いました。			

作品名	黄道十二宮 (1896)	作者名	ミュシャ
感じたこと			
この作品では女性が堂々と描かれていて、女性の飾りや服装も鮮やかです。髪も流れるようにデザインされていました。この頃、日常生活にも芸術を取り入れる考え方がヨーロッパで起こり、フランスでは「新しい芸術を意味する「アール・ヌーヴォー」と呼ばれました。特徴は、自然をモチーフにした曲線です。			

作品名	ムースビール (1899)	作者名	ミュシャ
感じたこと			
この作品はビールのポスターであり、19世紀末でもポスターがあるなんて驚きました。他にも香水や自転車のポスターがありました。ビールのポスターでも花や女性が鮮やかでポスターには思いませんでした。ちなみにチェコスロヴァキア共和国のコルク紙幣にはミュシャの絵画がデザインされていました。			

※鑑賞レポートは、2学期の評価材料となります。